

大学進学を志す第一世代の生徒

(First-Generation College-Bound Students)の大学進学動機とは何か

— 沖縄県の県立高等学校を例として —

天木勇樹 (カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA))

1. はじめに

日本全国の平成 20 年の大学・短期大学進学率の平均 55.3%に比べると、沖縄県の高等学校卒業生の大学進学率は約 31%と非常に低い(MEXT)。沖縄県では大学進学率を上げるために都市部に進学高校を新設するなど様々な取り組みが行われており、今後の各高等学校の成果が期待されている。

大学進学に関する取り組みなどを議論する際にアメリカでは二種類の異なる学生層に分類する場合がある。それは学生の両親が大学・短期大学卒業以上の学歴をもつか否かである。大学・短期大学卒業以上の学歴をもたない両親をもつ学生を「大学進学をした第一世代の学生 (First-Generation College Student)」と呼び (NCES 1998)、アメリカの高等教育機関では様々な研究がなされている。両親が大学・短期大学卒業以上の学歴をもたない学生と両親が大学・短期大学卒業以上の学歴をもつ学生とでは異なる特徴があり、前者の学生は家族の中で初めて大学を卒業し社会に出ることが誇るべきことだというアメリカ文化がある。

全米教育統計センター(NCES)によれば、高校での適切な教育指導と両親の学歴が大学進学を志す上での進路選択や大学入学後の大学生活の面でも大きな影響があるとの報告がある(NCES 2001)。本研究では、大学・短期大学卒業以上の学歴をもたない両親のもとで育てられた

子供の中で、大学進学を初めて試みる生徒を「大学進学を志す第一世代の生徒 (First-Generation College-Bound Student: 以下、FG の生徒)」とし、さらに両親のどちらか一方もしくは両方が大学・短期大学卒業以上の学歴をもつ子供の中で大学進学を試みる生徒を「大学進学を志す生徒(Non-First-Generation College-Bound Student: 以下、Non-FG の生徒)」とする。

沖縄県の大学進学率を向上させるための改善点を考えた時に、高等学校の段階で FG の生徒と Non-FG の生徒の違いを配慮し、進路指導の面でもどの様にそれぞれの生徒に対応すべきなのかを明確にすることで、さらに多くの生徒を大学進学へと導くことができるのではないかと考えている。そのためにも、FG と Non-FG の異なる特徴を調査し明らかにすることは重要な課題である。

2. 研究目的

本研究は、沖縄県の県立高校に通う FG の生徒と Non-FG の生徒の大学進学への選択にどのような心理的かつ地域的影響があるのかを明確にすることである。本報告では定量調査の分析から明らかになった FG の生徒と Non-FG の生徒の類似点と相違点を報告する。

3. 研究方法

沖縄県の沖縄本島の県立高等学校に

研究参加を依頼し、調査研究の承諾が得られた5校の第三学年の生徒の中で大学進学を志望する者を対象とした。承諾が得られた高等学校は、北部地域の Northern 高校、中部地域の Central I 高校と Central II 高校、都市部の Urban 高校、そして南部地域の Southern 高校である。本調査の調査期間は2007年10月から11月のある程度進路が決定されている時期を見計らい行なわれた。各高校の第三学年（2クラスから3クラス）で15分程度の無記名によるアンケート調査を実施した。アンケート内容は、親の学歴や職種、家族構成、進路決定時期、進路決定で一番影響を与えた人、大学進学動機、志望校決定理由等である。

4. 研究結果

本調査では353名の大学・短期大学志望者がアンケートに回答した。全体では男子生徒が160名（45.3%）、女子生徒が193名（54.7%）であった。さらに、FGの生徒は148名（41.9%）、Non-FGの生徒は205名（58.1%）であった。地域別でFGの生徒とNon-FGの生徒の割合を比較すると、北部地域と中部地域ではFGの生徒とNon-FGの生徒の割合は5割程度とほぼ同じであったが、都市部と南部地域ではNon-FGの生徒の割合が約7割を占めていた。

本調査結果で特にFGの生徒とNon-FGの生徒の間に差が見られたのが、「初めて大学進学を決めた時期」である。FGの生徒では、中学校三年と回答した生徒が21.6%、次に高校一年前期（14.2%）、小学校時代（12.2%）であった。Non-FGの生徒では、中学校三年と回答した生徒が25.4%と一番多く、次に小学校時代（18.5%）、高校一年前期（14.1%）であり、Non-FGの生徒の方

が大学進学をかなり早い時期に考えている傾向がある。

次に「大学進学を決める際に誰の影響が一番あったと思うか」という質問に対する回答では、FGの生徒で「母親」と回答した生徒が37名（26.8%）、次に「友人」が26名（18.8%）、「父親」が17名（12.3%）であった。Non-FGの生徒では、「母親」と回答した生徒が60名（33.5%）、次に「父親」が37名（20.7%）、「友人」が20名（11.2%）であった。「友人」と回答したFGとNon-FGの生徒の両方がクラスメイトや周りの環境が進路選択にも大きく影響していると推測される。さらに、Non-FGの生徒の方が大学進学の見学や進路選択に両親の影響を強く受けている。

志望大学の選択では、FGの生徒とNon-FGの生徒の約4割が琉球大学を第一志望としている。次に志望大学先として多かったのが沖縄県内の私立大学であり、FGの生徒が25.5%、Non-FGの生徒が16.5%であった。Non-FGの生徒の方は県外の国立・私立大学を志望する生徒も多くいた。FGとNon-FGの生徒のどちらのグループも約6割が県内進学傾向がある。これも経済的な援助の面を考えると、両親の理解なしに大学進学や志望校選択を決定することは非常に難しいのが現実であることも進路選択に関しての大きな要因の一つだろう。さらに本調査で約8割のFGとNon-FGの生徒が「沖縄で生まれ育ったことにとっても誇りを感じる」と回答したことからもわかるように県人意識の強さも県内進学志向に影響しているのかもしれない。

この様に、FGの生徒とNon-FGの生徒では、類似点もあるが明らかに異なる特徴もある。その他の調査結果の詳細に関しては、本大会で報告する。